

# 水戸未来ビジョン 2022





## わたしたちのまちは今…

我が国は、これから超高齢社会を迎えようとしています。我々の地域においては、人口減少は少ないものの、生活に必要な機能が徐々に郊外に拡散し、車がなければ生活しにくい拡散型の都市構造となっています。このことから、中心市街地の空洞化がみられ、中心市街地から人が少なくなっており、車を活用しなければ公共施設や商業施設などが利用しにくく、生活が不便になっています。このままでは生活空間としての魅力が喪失され、人との交流やにぎわいなどがなくなり、まちとしての魅力を失ってしまいます。

しかし、2023年には新たな交流の場として「水戸市民会館」が中心市街地に誕生します。時代背景によって郊外化してしまったまちの活気を中心市街地に取り戻し、「水戸未来ビジョン2022」によって将来像を共有し、戦略的に持続可能な共創社会を実現していく必要があります。



## ビジョン策定までのこれまでの歩み

水戸青年会議所は、これまで創始の精神を受け継ぎながら多くの情熱を注ぎ、まちの未来を考え、運動を展開してきました。2004年に「全国会員大会水戸大会」を主管した後、その経験を活かし、新たな指針として2005年に「水戸未来ビジョン」を策定しました。その後、60周年を迎えるにあたり2012年に「5カ年アクションプラン」を発表し、新たな運動方針として活動して参りました。その結果、2016年に第29回国際アカデミーを水戸の地で開催して多くの市民の皆様インパクトを与えました。また、2017年には嘉義国際青年商會と姉妹LOM締結をし様々な交流を行い市民の皆様に対しても国際交流の場を提供して参りました。その後、2021年には、第69回関東地区大会水戸大会を主管し、関東全域に水戸の魅力を発信し続けて参りました。

この70周年という大きな節目に、これまでの運動を検証し、今まで以上に地域をより良くするため、時代のニーズにあった新たなビジョンを策定し運動を展開して参ります。

## 人と都市活力の調和がとれた都市「水戸」

【 JCI水戸 × 社会 = 想いが連鎖するまち 】



【 JCI水戸 × 経済  
= 経済活力が溢れるまち 】

【 JCI水戸 × 国際  
= グローバル化が進展するまち 】



## JCI水戸 × 社会 = 想いが連鎖するまち

---

現在では、人々の価値観やニーズが多様化し、グローバル化や情報化が進むことで、地域課題も刻々と変化しています。あらゆるステークホルダーと手を取り合い共創活動によって何を実現したいのかを考え、社会変革や課題解決に取り組む必要があります。人々や社会の幸福のために、それぞれが持つノウハウや知識を快く提供して、互いに新しい価値を生み出し続けられるようにすることで、想いが連鎖するまちを実現します。





## JCI水戸 × 経済 = 経済活力溢れるまち

日本が直面する超高齢化、人口減少は地方にとって特に深刻です。しかし、我々の地域では、超高齢化予想はあるものの人口減少は少なく、経済を支える地元企業数は県内トップであります。この特徴を活かした新たな経済圏の確立を推進していきます。また、周辺地域の強みを共生しながら、まち全体の『価値』を高めるまちづくりを行い、経済活力溢れるまちを目指します。





## JCI水戸 × 国際 = グローバル化が進展するまち

少子高齢化・人口減少が進む中、まちに新たな活力をもたらすのは国際交流の場。まち全体の多文化共生への意識を高め、海外からも訪れたい場所としてまちのブランド力を高めていきます。そして異文化がもたらす新たなイノベーションや国際的なビジネス創出を通じ、グローバル化が進展するまちを目指します。

## これから先の10年間

青年会議所の根幹であるひとづくりの精神はより良いまちを創るためであり、我々は3つの運動方針に沿ったひとづくり、まちづくりを行い、今後の運動を展開して参ります。そのためには、地域に住み暮らす人々、行政、諸団体との「共創」の精神が必要であり、多様な立場の良さを認め合い、「社会、経済、国際」の視点からまちを見詰め直し、共に新しい価値を生み出す「共創社会」の実現に向けて歩みを進めていきます。

新ビジョンの活用方法においては、2023年から2027年までの5年間の運動方針とし、5年後以降の2028年を検証の年として、2029年から2030年の2年間では、検証をもとに社会実験を行い実証していきます。2031年から2032年の2年間で水戸青年会議所80周年以降の新たなビジョン構築をすすめていき、その時代に合わせて変化をさせていくものとして考えております。





## おわりに

---

先達達はまちの未来に想いを馳せ不可能を可能にし、現代まで水戸青年会議所を紡いできました。経験を通じ得たものは必ず自分の中に蓄積され、活動を通じ出会った「ひと」との繋がりはかけがえない財産となる。大切な「ひと」が住み暮らす地域のために、共に新しい価値を生み出す「共創社会」の実現に向けて歩みを進めて参ります。

これからのまちの未来のために、、、

